



第4号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

第56回農業教育研究 協議会が盛大に開催

開会挨拶

公益財団法人
全国学校農場協会

理事長 日置 司明



本日ここに、当農場協会、第56回農業教育研究協議会を開催しましたところ、国会開会中にも関わらず、衆議院議員 石破 茂先生、あべ俊子先生、参議院議員 上月良祐先生、をはじめ、多くの国会議員の方々、更に、文部科学省、農林水産省など関係省庁の方々、加えて、日頃ご支援、ご協力を賜っております団体の方々など、ご多忙の中を多くのご来賓のご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

また、全国から参加頂いている、会員の皆さんには、日頃から協会に対して、力強いご支援を頂き、心より感謝しているところであります。ありがとうございます。

さて、今年5月1日、元号が令和へと改元され、全ての国民が、大きな期待と明るい希望をもって、新しい時代への第一歩を踏み出しました。しかし、9月から10月にかけて、台風15号・19号・21号が日本列島を直撃し、甚大な被害に見舞われました。被災された方々にこの場をお借りして心よりお見舞い申し上げますとともに、復興には多くの困難を伴いますが、一日も早く復興されますよう願っています。また、これらの台風は、各地の農業へも甚大な被害をもたらし、その対応が急がれるところであります。加えてこれまでの我が国の農業は、加速する少子高齢化社会と人口減少時代の到来を背景に様々な課題が山積し、依然厳しい状況にあります。特に、農業従業者の減少と高齢化、中山間地

域の就農者の定着と個人農家及び、小規模農家の維持・発展を図るための方策と支援等は早急に対応しなければならぬ重要課題であると考えます。

国会議員の方々も、国の基幹産業である農業に強い関心を持ち、将来の農業を担う人材の育成と進展する農業に対応できる教育環境の整備・充実は急務である。特に、老朽化施設・設備の改善と、新技術習得のための施設・設備の導入・充実に、ご支援・ご尽力頂いているところであります。また、近年は国際水準に基づいたのAP認定やHACCP認定の取得、IoTや情報・通信最先端技術を搭載した大型機械ロボット、ドローン等を導入したスマート農業の普及が進められ、これまでの農業とは大きく変わろうとしています。

必要な専門知識は何か、それらの知識をどの領域で教えるのか、また、それに伴う必要な技術を身に付けさせる方策を明確にして、その知識・技術を確実に習得させる教育を推進することが何より肝要であると考えます。我々は、農業教育のプロ集団です。農業を変えるには何より生徒達に高い農業の力を身に付けさせることあります。 ”農業で教える“のではなく、 ”農業を教える“のです。農業高校で学ぶ生徒達は、この学校で3年間農業のことを学べば自分の将来は必ず拓けるものと信じて通学しているのです。農業高校で学んだ生徒達の生きる力の第一番目は農業の高いレベルの専門力とその身に付けた専門性に裏付けされた誇りでなければなりません。力があれば、必ず農業は変わります。ラグビーのワンチームジャパンは持てる力のすべてを発揮してベスト8を勝ち取り、人々のラグビーに対する意識を大きく

く変えることを立証しました。我が国の農業も、会員の先生達の力によって、生徒達が将来へ向けて夢も希望も託せる産業へと変革されることを期待しています。

これからも公益財団法人全国学校農場協会は、様々な事業や活動を通して我が国の農業並びに農業教育の振興と、広く国民への啓発活動を展開するとともに、会員の日常の教育実践への支援に全力で取り組んで参ります。今後もお協力ご支援を頂きますようお願いし挨拶いたします。

来賓祝辞

衆議院議員 石破 茂



只今、御紹介いただきました、農林水産高校を応援する議員の会の会長を務めております衆議院議員の石破茂でございます。

さて今、黙祷いただきましたが、これまで事務局長として、教員の経験を活かして、子供たちと農林水産業に対する弛みない愛情と思いを持って一生懸命尽力してくれました宮川典子衆議院議員が、急逝いたしました。乳癌ということでありましたが、40歳という若さで亡くなりました。短い生涯、たつたかも知れませんが、本当に、全身全霊、生ききった人生ではなかったかな、という風に思うところであります。その後任事務局長として、今日、参っておりますが、上月参議院議員にお願いいたしました。茨城県の副知事から参議院議員になられました。元は、中央官僚であります。農林水産省の政務官も務めて、地方行政や、あるいは農林水産業に、たいへん造詣の深い議員であります。宮川さんの後を受けて、特に縦横無尽に、皆様と共に、農林水産教育の発展のために尽力してくれれば、確信しているし、たいへんありがたいです。また、今日、参っておりますが、あべ俊子衆議院議員など、本当に全身全霊で、この仕事のために努力をしておるところであります。

大変恐縮ではありますが、私はこれから、晴海に行きまして、CO2という言葉が聞かれたことがあるかも知れませんが、新しい建築素材で、コンクリートと同じ強さを持つているのですが、重さが5分の1という素材でございます。それがヨーロッパやアメリカでは加速度的に普及しております。日本の場合には、まだまだということ、オリンピックの開催に合せ、隈研吾先生の設計によります新しい建物ができました。その竣工式が11時半からございます。そこで、挨拶をしないといけませんので、冒頭ご挨拶して、失礼させていただきます。また、4時から参連がございますので、また、御要望を承り、お答えさせていただきます、更に研鑽を深めてまいりたいと思っております。

先ほどの木材もそうです。日本国は、国土の67%が森林でございます。先進国でいえば、フィンランド、スエーデンに次いで林野率というのが高いのでありますが、需給率は極めて低い、28%ということになります。農業も林業も共通したところがあるのだらうと思っております。最大限に活かしていく、ということ、21世紀の日本にとつて極めて大切なことだと思っております。非常に簡単にござつくりと言っちゃいますと、21世紀というのは、世界の人口が2倍になる。それが21世紀であります。そんな環境が激変する中であつて、農林水産業がいかにあるべきか、そういう体験的な視点に立つて論じていかねばならないというように、思っております。詳細については、また、午後お話をさせていただきますが、今日の研修会が実り多いものであることを心からお祈りして、御挨拶いたします。どうもありがとうございました。



農学を超えて進化する東京農大

東京農業大学にある152もの研究室は、地球上の人類や動植物が直面している問題を解決する糸口となる研究を進めています。温暖化、資源枯渇、食糧危機、絶滅危惧種の増加など、研究対象は農学を起点に、あなたが想像する以上に広がりを見せています。あなたの使命感、夢を駆り立たせる学びと出会ってください。



東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 〒156-8502東京都世田谷区福生1-1-1 www.nodai.ac.jp

- 農学部 応用生物科学部 生命科学部 地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産業界学部